

取組状況・成果

【ユニバーサルデザインまちづくりの推進】

- ユニバーサルデザインのまちづくりを推進するためには、認知度を向上させることが不可欠であり、平成26年度は「防災・避難」と「商店街・おもてなし」、平成27年度は「ユニバーサルデザインとは」と「コミュニケーション」をテーマに、区民や障害者、外国人など様々な人が参加するワークショップを活用しガイドブックを計4冊作成しました。また、各種団体への配布や職員講習会などでガイドブックを活用し普及啓発を図りました。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催、「訪日外国人旅行者を2020年までに4,000万人」の政府目標の実現を目指す中、新宿駅はその受け皿として、誰でも利用しやすいターミナルの実現、さらには賑わいのある新宿を実現していくことが求められています。このため、関係者が一堂に会して、新宿ターミナル協議会を設置し「新宿ターミナル基本ルール」を平成28年3月に策定しました。
- 鉄道駅の出入口周辺、主要交差点付近等の区道上等に「歩行者用観光案内標識」を18基設置しています。（内訳：平成17年度 中井駅・下落合駅・神楽坂駅周辺 3基（区単独）、平成18年度 新宿駅周辺 15基（都補助10/10））

【新宿フリーWi-Fiの整備等】

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を見据え、訪日外国人旅行者から特に要望が多い無料公衆無線LAN環境「新宿フリーWi-Fi」の整備に取り組んでいます。
- 整備にあたっては新宿観光振興協会とNTT東日本、NTTBP各社と協働して取り組んでおり、平成28年4月までに、新宿駅周辺に18基の屋外向けアクセスポイントを設置しました。また、新宿区内の飲食店や百貨店等、商業施設内に設置された店舗向けアクセスポイントでも新宿フリーWi-Fiを利用できるよう、NTT東日本と協力で参画を呼びかけ、平成28年4月時点のアクセス数は屋外、屋内含めて延べ19,152件です。
- 新宿フリーWi-Fiへ接続後、利用者端末には自動的に新宿観光振興協会のポータルサイトが表示されるので、利用者は区内の観光情報や他エリアのWi-Fi整備状況を確認することができます。これにより、利用者の区内回遊を促しています。
- 東京都や他の自治体等が整備するフリーWi-Fiと連携し、利用者が一度の利用登録で横断的に利用できるような取り組みを進めています。

現状・課題

【ユニバーサルデザインまちづくりの推進】

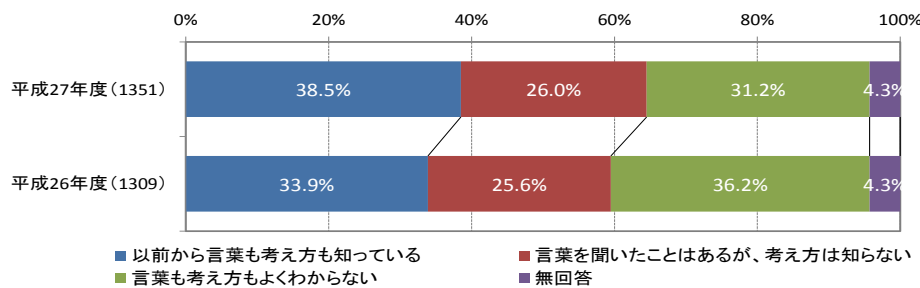
- ワークショップや現場体験などを実施する中で、横断歩道の境界部分の小さな段差の効果やコミュニケーションをとるときの身振り手振り、言葉の使い方の効果など新たな気づきがあったり、ユニバーサルデザインの理念がまだまだ浸透していないという課題が明らかになりました。また、周知啓発事業と併せ、ユニバーサルデザインの更なる理念の浸透やまちづくりの実践を図っていくための新たな取組みが必要です。
- 新宿駅周辺は、各交通機関が広域かつ重層的に散在しており、既存案内標識の不統一などから利用者に分かりにくい状況であり、東京都や鉄道事業者等との連携が必要です。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の際は国内外からの来街者の増加が見込まれるため、初めて街を訪れる旅行者でもストレスフリーで目的地にたどり着けるよう、視認性が高く判読しやすい案内標識とする必要があります。
- 既存の観光案内標識は、設置から約10年が経過しており、盤面劣化及び地図情報の変化に対応する必要があります。
- 東京都「国内外旅行者のためのわかりやすい案内サイン標準化指針」・「東京都版対訳表」（平成27年2月策定）、国が決定した地名等の英語表記ルール及び外国人向け地図記号（国土交通省国土地理院平成28年3月決定）との整合性のとれた、最新のピクトグラム、マーク、地図記号及び外国語訳を反映する必要があります。
- 新宿駅周辺の観光案内標識については、新宿ターミナル協議会において計画している新たな案内サインの配置計画との調整が課題となっています。

【新宿フリーWi-Fiの整備等】

- 利用者の利便性向上には、アクセスポイントのネットワーク化（点から線へ、線から面へ）が必要ですが、行政だけで広範囲かつ高密度の整備は困難で、民間による積極的な整備を促進していく必要があります。
- 具体的には、屋外向けアクセスポイントの設置における、設置場所の管理者等との事前調整や、店舗向けアクセスポイントでの新宿フリーWi-Fi提供にむけた事業者の協力などが必要となります。
- 公衆無線LANは、東京都も積極的に取り組んでおり、都の整備状況等を十分に踏まえた整備が必要です。
- 利便性とセキュリティのバランスを十分に比較衡量した、使いやすく安全なものとする必要があります。

ユニバーサルデザインという言葉について、「以前から言葉も考え方も知っている」（38.5%）が4割近くで最も高く、「言葉も考え方もよくわからない」（31.2%）が3割強となっています。

（図表1）ユニバーサルデザインという言葉の認知度

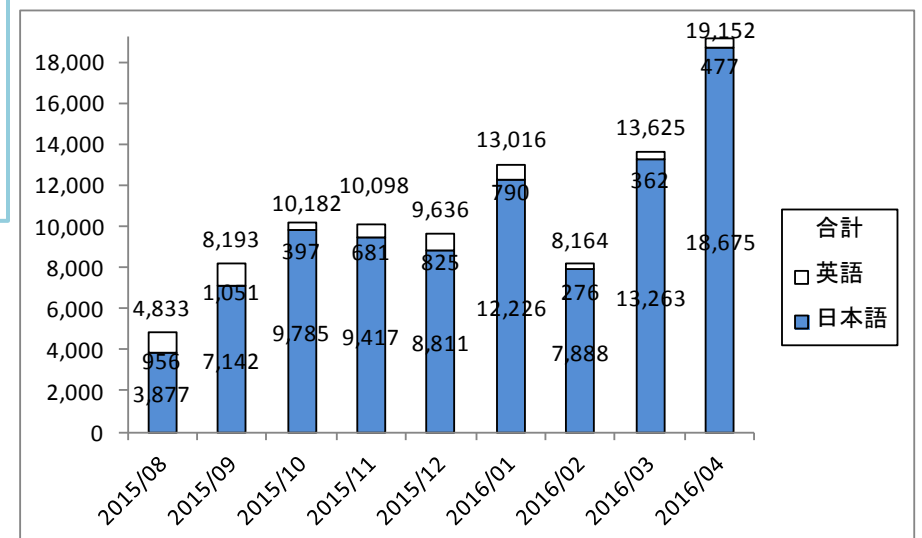


資料)平成27年度区民意識調査

新宿フリーWi-Fiのアクセスポイント数は、増加傾向を示しており、平成28年4月時点のアクセス数は屋外、屋内含めて延べ19,152件です。

「ユニバーサルデザインとは」年齢、性別、国籍、個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの人ができるよう生活環境その他の環境を作りあげること。

（図表2：新宿フリーWi-Fiのアクセスポイント数の推移）



目指すまちの姿・状態

年齢、性別、国籍、個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの人が利用できるような生活環境その他の環境を推進していきます。また、誰もが分かりやすく使いやすい利用者本位の案内サインを整備し、歩行者空間の創出に取り組むとともに、公衆無線LANの使えるエリアを増やすことで訪日外国人旅行者らが何度でも訪れたいくなるような、安心して快適に新宿の賑わいを楽しめるようなまちをめざします。

施策の方向性

【ユニバーサルデザインまちづくりの推進】

- 区民参加型ワークショップにより作成するガイドブックシリーズを活用することで、より多くの区民へ啓発します。また、ユニバーサルデザインを更に推進するための新たな取組みを検討していくことで、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインのまちづくりを推進していきます。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催とその後を見据え、新宿駅及びその周辺へのアクセスルートが誰もがわかりやすく利用しやすいものとなるよう、東京都や鉄道事業者等と連携し、利便性の向上を図ります。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催とその後を見据え、最新の地図情報を反映し、且つ、国及び東京都の指針を踏まえたピクトグラムや外国語訳を使用した、視認性が高く判読しやすい盤面の観光案内標識の整備を推進します。
- 観光案内標識・総合案内板・住居表示街区案内板・避難標識板等、新宿駅周辺には多様な標識が既にあるため、快適な歩行者空間を阻害しないよう、既設のさまざまな標識位置に配慮しつつ、新たな案内サインと互いに設置箇所を調整して整備を進めます。

【新宿フリーWi-Fiの整備等】

- 店舗向けアクセスポイントを持つ事業者に対し、新宿観光振興協会、NTT東日本と協力して参画を呼び掛けていきます。
- 区内の乗降客数が多い駅周辺に、近隣のビル管理者の協力を得ながら、2～3基程度のアクセスポイントを設置していきます。
- 都の整備する「Free Wi-Fi & TOKYO」と綿密に連絡を取り、効果的・効率的な提供エリアの実現を目指します。

(ユニバーサルデザインのガイドブック)



(新宿フリーWi-Fi エリアサイン)



(新宿フリーWi-Fi 新宿駅周辺アクセスポイント)

